

# 第1章 戦場

## 大陸における戦い

武田一郎さんのお話から

○天津 表紙裏地図

昭和十二年（一九三七年）七月に召集された私は、旭川で入隊し、北京のそばの天津とうところに行きました。軍務は工兵と一緒にしました。本当に重労働でした。鉄道の橋を架けたり、敵が破壊したレールを直したり、そういう仕事ばかりでした。軍隊の移動は汽車で行います。そうしなければ、兵隊はみんな歩かなければならぬのです。ですから、鉄道連隊というのは、建設部隊の中でも貢献する部隊だつたと思います。

元気のいい兵隊がいました。「おまえ、一回鉄砲の弾に当たつてみろ。弾はおつかないぞ」と言うんです。冗談ではあります。弾に当たつたら、おつかないどころではありません。下手に頭に当たつたら一発で死んでしまうし、腕をやられて貫通したら、だめになつてしまします。

○貫通（鉄砲の弾が腕を）を貫いて通ること。

満州における戦場でつらい思いをしたのは食べ物です。食事は、満足に時間どおりにはできませんでした。必ず一時間か二時間遅れました。晩まで食べないこともありました。なぜかと言ふと、日本軍は、兵隊を先に出しておいて、食べ物や砲弾は後から送るという考えだつたからです。着のみ着のまま弾と食料を持つて、まず人は行くけれども、食べ物がなくなるのです。戦場は私たちの部隊だけではなく、何万人と次々と入つてきます。それなのに、食べ物がありません。ですから野積みになつたジャガイモがあれば、盗んでしまうこともあるのです。食べ物がないので、今度は、みんなで考えて、馬に食べさせる豆かすをしめたものも食べました。あれはおいしいのです。病気の馬に食べさせるコーリヤンを煮て食べたこともあります。このシの一種。

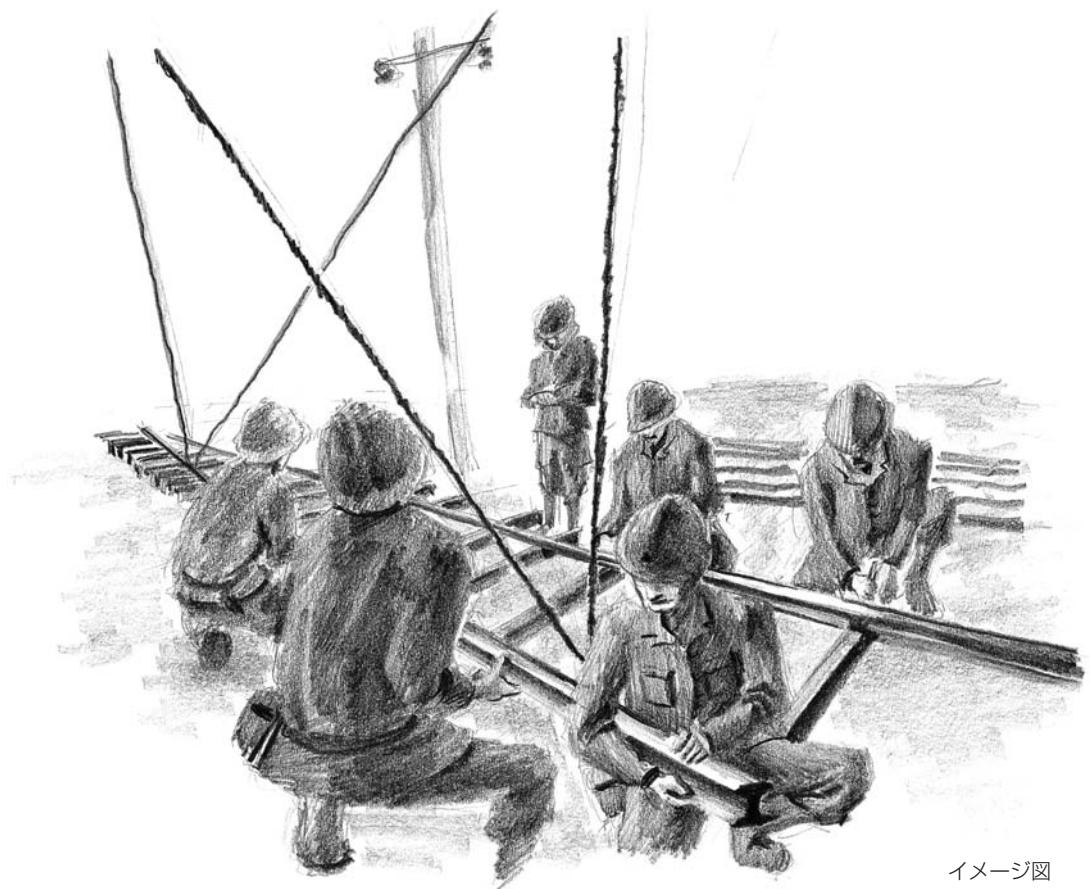
○コーリヤン イネ科の一年草。中国東北部などで多く栽培されるモロコシの一種。

ように、馬の食べ物まで食べてし  
まうような状態でした。  
じょうたい

た。忘れられないのは、豆腐を食とうふられなかつたことです。何千人に食べさせるとなつたら何千丁も要いるからです。魚を食べたことは一回もありません。肉は豚肉の塩漬ぶたにく しおづけを一切れ、それ以降いこう、食べたことはありません。それから、ライスカレーは具がないのです。ところつとルーだけなのです。このようになつたのでし

しかし、私たちはそれは仕方  
がない、それしかないと思い、ここ  
が一番いいものだと思つて食べ  
ました。そして、一生懸命寒い  
ところで訓練もしました。

正月は白飯が三日間出ました。



## イメージ図

## 鉄道の施設

○ 餓鬼がき 生前の惡行へいせいのため  
め、いつも飢うえと渴かわきに  
苦しみ、死んでも成仏じゆぶつできず、さまよつている  
魂たま。

○ 麦飯むぎめし 麦だけ、または  
米に麦をまぜて炊たいたため  
飯めし。

食べました。しかし、麦飯むぎめしのほうが  
消化がよく、白飯しらめしというのはあまり  
消化が良くなかったのです。体調たいじょうを  
くずす兵隊ひょうたいもいました。そこで、忘わす  
れられないことなのですが、三日間  
出ましたけれども、しまいにご飯ごはんが  
あまり残飯ののめしとなり、捨すてるというこ  
とが始まつたのです。

日本から十何万人も戦場せんじょうへ行つた  
のですから、やはり食べ物くわいものについて  
は大変おほぶんだつたのです。だから兵隊ひょうたいは、  
いつも腹はらをすかして、腹はらをすかして、  
何か食べ物くわいものがないか、何かないか、  
何かないかとそればっかり考えてい  
ました。そうなるとどんな教育きょういくをほ  
どこしてもだめです。兵隊ひょうたいたちは兵  
隊ひょうたいではなく、軍服ぐんぷくを着きているという  
だけの餓鬼がきのようになつてしまいま  
す。ですから、保管ほかんしている食べ物  
を盗ぬすむことになります。



イメージ図

いつも腹はらをすかしていた兵隊へいたい

今、あなたたちの食べているものは、昔の兵隊が食べていたものより、くらべようがないくらいはるかによいのです。昔の兵隊だつたら、あなたたちの学校で出ている給食なら飛びついで食べます。たちまちなくなります。それほど、あなたたちはよいものを食べているのです。

私は、三年間中国にいました。

どうして戦争が起きるのか、それは難しい問題です。結局は、國同士の欲張りでしょう。戦争で命を落とす以外の方法で決着をつけることはできると思うのですけれども、何で命を犠牲にするのか。それは、歴史や戦争の本をよく見て、しつかり勉強して、そして、みなさん自身でよく考えてください。

最後にみなさんにおきたいことは二つです。まず、絶対に戦争をなくさなければいけないということ、そして、もう少し愛国心を持つていただきたいということです。よその国の人はだれも日本の國を守れないのです。日本は日本人しか守れないのです。そこを考えていただきたいと私は思います。絶対に戦争は避けなければダメです。

## DATA

平成20年度豊平区平和事業

聴き取り

・平成20年8月23日

・つきさっぷ郷土資料館



武田一郎(たけだ・いちろう)さん

・大正3年(1914年)生まれ

・札幌市豊平区在住